

八代市 総合戦略

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

令和元年度

基本目標1 魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”

1. 多様な地域資源を活かす

(1) 稼げる農林水産業の実現

農林水産物の「安心・安全」、「高品質」、「安定生産」に向けて、担い手の確保とともに地域の特性を活かした生産体制の確立や低コストへの取組みを支援し、稼げる農林水産業の実現に力をいれます。また、豊富な森林資源を木材需要に応じて供給するシステムの構築と利用促進への取組み、漁場環境保全や水産資源の回復・増大への取組みを進めるなど、生産環境の改善や品質向上等の生産振興を総合的に支援・促進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①いぐさ作付面積(ha)	601	630	346	-879%	↘ 作付農家戸数自体が計画策定時より163戸(H26:460戸→R1:297戸)減少したため。いぐさ・畳表についての構造調整計画において、農家戸数、作付面積の減少の現状を踏まえ、農家の継承と規模拡大を課題としている。H29年度より導入支援を行ったハーベスタ導入農家においては、平均作付面積136aと、全体の平均作付面積120aを大きく上回っており、省力化機械の維持・導入を図ることで、一戸当たりの作付面積の維持・規模拡大を図る。
②素材生産量(万m ³)	6.7	10	10	100%	◎ 昨年度と変わらず順調に生産されていた模様。
③漁獲量(t)	301	330	242	-203%	↘ 計画策定時より、ヒラメ、貝、カニ類などの漁獲量が減少し、目標値には達していない。
④木の駅プロジェクト取扱量(t)	1,000	1,200	760	-120%	↘ 海外への木材輸出の需要が高まったこともあり、林業事業者から木の駅への出荷量が減少し、目標数値に達しなかった。

(2) フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進

「食」に関するあらゆる産業が活性化した県南フードバレー構想の一翼を担う「フードバレーやつしろ」を目指し、6次産業化の推進等による新商品開発や高付加価値化、国内外での農林水産物のプロモーション活動や食品の輸出拡大による流通促進などの取組みを進めます。また、本市の豊富な農林水産物を活かした「食」に関連する幅広い取組みを展開するために、食品関連産業や研究開発施設の集積を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 6次産業化・農商工連携による新商品開発数(商品)	5	10	7	40%	↗ 新商品開発に積極的な事業者の掘り起し不足等により、目標を下回っている。R2年度は8商品を見込んでおり、今後も事業者に対してのアドバイザーによる商品開発に関する助言や関係機関等との連携強化を図ることにより事業者への意欲喚起を促し新商品の開発に繋げていく。

基本目標1 魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やっしろ”

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
② 海外における農林水産物販売額(万円)	1,400	3,000	1,333	-4%	↘ 輸出先国の規制や価格、鮮度保持などの諸条件により、成約に至らないケースがあり、目標を下回っている。既存の取引を継続しつつ、生産団体や県、周辺自治体と連携し、販路拡大に取り組む。
③ 八代港を利用した農林水産物の輸出コンテナ数(TEU)	3	10	92	1271%	◎ 利用助成制度の効果により、目標を上回っている。引き続き制度の周知により、継続的な利用拡大を図る。
④ 食品関連企業への設備投資支援件数【事業停止】	0	15	-	-	- 平成28年度の当初予算に計上し、4月より一次募集を開始したものの、熊本地震の発生により事業者が設備投資を行える状況になくなった。また、その後、地震特例として事業者にさらに有利な補助として小規模事業者持続化補助金(商工会議所取扱い)が設置されたことから、本補助金の有効性が薄れ、活用は難しいものと判断し、予算執行を取り止めた。

2. 多彩な地域産業を支える

(1) 成長産業化への多面的な支援の展開

自社技術や製品の販路開拓・拡大の支援や事業資金の融資等による中小企業の競争力強化、中小企業等が実施する新技術・新製品等の研究開発事業への支援などにより、独自の優れた技術・製品をもつ企業の育成を図ります。

また、企業と地域の教育機関との研究・開発についての連携を支援していきます。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 販路拡大等に向けた展示会等への出展支援件数	0	10	22	220%	◎ 企業の成長を加速させる支援策の一つとして、有効に機能している。
② 新技術・新製品研究開発支援件数	5	25	11	30%	↗ H30年度から未来チャレンジ企業成長助成金として、認定を受けた企業だけが申請できる制度へと変更。申請できる企業の絶対数が減少し、件数が増えなかった。しかしながら、販路拡大の支援と統合し、やる気がある企業の成長を加速させる支援策として、有効に機能していると考えている。

(2)「人材」の確保・育成・支援

産業振興はその担い手となる人材の確保が基礎となります。農林水産業については、新規就業に係る知識・技能の習得支援や就業給付金等の活用により、担い手の確保を図ります。製造業をはじめとする第2次産業や商業・サービス業等の第3次産業については、地域人材のマッチングを展開するとともに、スキルアップ等の支援により人材育成を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 農林水産業の新規就業者数	30	40	17	-130%	↘ 景気の好感等により、学卒新規就農者が減少した。今後は、学卒新規就農者の確保に向け、関係機関と連携し、対策を進める。
② 人・農地プランにおける中心経営体数	824	1,000	1,265	251%	◎ 中心経営体数は順調に増加している。今後は、国の人・農地プランの実質化の方針に基づき、再度地域での話し合い活動を進めていく。
③ 林業関係認定事業体数	10	11	11	100%	◎ 認定事業体の増加に向け、県と連携し取り組む。
④ 地域人材マッチング事業で就業した人数	0	24	59	246%	◎ 有効求人倍率が高い水準で推移していたため、無料職業相談室を利用した就職者は減少傾向であったものの、目標を超える実績が得られ、就業に対する支援の必要性は高い。今後、無料職業相談室に代わり、八代圏域雇用促進センター等の活動を通じて、より企業と求職者の希望に応じたマッチングの仕組みを構築していきたい。
⑤ 経営者人材育成セミナー受講者数	0	20	22	110%	◎ 平成30年度から経営者と従業員、それぞれだった研修への助成制度を統合し、予算を有効に使用できるようになったことから、申請への対応が柔軟になり、申請数も増えてきた。
⑥ インターンシップの受入れ企業数	0	20	245	1225%	◎ 八代圏域雇用促進センターと市内教育機関との結び付きが強くなってきたこともあって、マッチング数が増加したことに伴うもの。

(3) 基幹産業の支援・強化

本市の製造業は、古くから大規模工場や事業所が立地しており、地場の中小企業振興の一翼を担い、共に発展してきました。今後、安定的な生産確保をするとともに、生産性の向上など、時代に合った産業活動を促進する観点から、大規模事業所の維持拡大及び地場の中小企業を支援するとともに企業誘致を推進します。

また、安定的な生産活動を確保するため、農業分野においては経営規模の拡大や担い手への農地集積を進めることにより、生産性の向上を図るなど、時代に合った産業活動を推進するため、産業基盤の強化・充実を促進します。

さらに、基幹産業の強化のため、研究施設等の政府関係機関の移転誘致にも取り組んでいきます。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 企業立地件数(熊本県と立地協定を締結した件数)	7	10	23	533%	◎ H30、R1年度ともに、企業の投資が活発であったことから、申し分のない実績が得られた。
② 新增設に対する支援件数	15	15	45	300%	◎ H30、R1年度ともに、企業の投資が活発であったことから、申し分のない実績が得られた。
③ 担い手農家への農地集積率(%)	67.8	80	68	2%	↗ 特に平野部において、規模拡大志向の担い手は多いものの、貸し出しを希望する農地が不足しており、集積率は伸び悩んでいる。今後は、農地の所有者に対し、農地バンクの周知を進める。

※②新增設に対する支援件数は、策定前の5年間の実績値が15件であったため、H27-R1の5年間も同様に15件を目標として設定している。

3. 南九州のゲートウェイとしての拠点性向上

(1) 国際貿易港「八代港」の振興

八代港は重要港湾の指定を受けた県下最大の港湾で、南九州の物流拠点としての役割を果たしています。国、県等と十分に連携しながら、船舶の大型化や貨物取扱量の拡大などに対応した港湾機能の強化や海外航路の新規開拓、企業等への支援などをはじめとするポートセールスの展開により、八代港の利用促進を図ります。

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 八代港のコンテナ取扱量(T EU)	18,000	28,000	23,357	54%	↗ 米中貿易摩擦や日韓関係の影響等によりコンテナ取扱量は微増の状況。大幅なコンテナ取扱量の増加を図るには、韓国直行便だけでなく、中国、台湾等の新規航路の開設が必要と考える。よって、今後も引き続き、コンテナ船社や荷主等へのポートセールスに取り組む。
② 企業訪問件数(ポートセールス)	583	2,500	2,496	99.8%	↗ ほぼ目標数値までの進捗であった。今後も、引き続きポートセールスを行う。
③ 荷役設備等導入支援件数	0	2	2	100%	◎ 目標数値まで達成。

基本目標2 人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ”

1. 交流人口の拡大

(1) 地域資源を活かした交流拡大の推進

本市には、平家落人伝説が残る秘境五家荘や開湯600年の歴史を誇る日奈久温泉、やつしろ全国花火競技大会、妙見祭や松浜軒、伝統芸能などの文化財、農林水産業や自然環境を活かした体験型のプログラムなどの多様な観光資源があります。これらの魅力向上や新たな観光資源の掘り起こし、来訪者の受入環境の整備や受入れ組織の強化、特産品等の地域資源を活かしたブランディング等により、ヒトやモノの交流拡大を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①新規開発する体験・交流プログラム数	0	30	19	63%	↗ 民間事業者からの補助申請が目標数に満たなかったため。DMOやつしろと連携し、民間事業者への開発支援PRを強化していく。
②やつしろ全国花火競技大会観覧者数	300,000	330,000	300,000	0%	→ 大会当日までの雨の影響もあり、有料観覧席の売り上げが伸び悩んだ。さらにPRの強化を行う必要がある。

(2) 世界に打ち出す観光業の展開

八代港におけるクルーズ需要を取り込み、インバウンドの拡大を図るため、クルーズ船の寄港促進に向けた取組みや八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録も視野に入れた外国人観光客の受入れ環境の整備、受入れ組織の強化等を行い、県南各地域とも連携し、新たな交流人口の拡大を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①クルーズ船の来航数(回)	3	42	143	359%	◎ 八代港クルーズ客船受入実行委員会等による受入組織の強化を行いつつ、新型コロナウイルス収束後のクルーズ船寄港回復に向け、受入環境の整備を行っていく。
②無料公衆無線LAN設置箇所数	0	30	23	77%	↗ 国内外からの来訪者等の利便性向上や観光・交通、イベント、災害時等の情報伝達手段として状況に応じて設置に取り組む。
③クルーズ船等により観光や買物等を目的に市内へ来訪した外国人数	2,500	12,500	3,932	14%	↗ クルーズ客船の大幅な減少によるもの。引き続き、外国人観光客の受け入れ体制の環境整備を図る。

(3) スポーツツーリズムの推進

スポーツ環境の整備やスポーツ大会等の誘致・開催を進めるとともに、スポーツイベント等に関わる旅行や周辺観光など、スポーツと観光を融合させることで、新たな価値や感動を提供し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 全国規模のスポーツ大会等の来場者数	4,500	25,000	51,800	231%	◎ 2019女子ハンドボール世界選手権、インターハイといった大規模スポーツ大会に加え、競技団体が実施するスポーツ大会が増加。
② 全国規模のスポーツ大会等の開催・誘致件数	1	3	13	600%	◎ 関係団体等と連携し合宿誘致を行ったことで、新規のスポーツ団体の合宿が増加。

2. 移り住みたい、住み続けたいまちづくり

(1) 移住・定住の推進

本市への移住や定住を促進するため、本市の魅力発信やきめ細やかな情報提供を行うとともに、移住者の受入体制の整備等をはじめ、誰もが安心して住み続けられるよう、移住・定住者に対する多方面での支援を行います。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①空き家バンク登録数(件)	0	40	47	118%	◎ 制度開始後から年々相談や登録件数が増加傾向である。 毎年5月と9月に空き家バンクについての周知や宅地建物取引業協会との協力などにより空き家バンク制度が定着化してきたものと思われる。 今後もより良い制度に向け研究及び改善を行ない、制度の活用促進を目指す。
②移住・定住の支援組織数	0	1	2	200%	◎ 目標は達成できたことから、今後は支援組織との連携を深め、移住定住施策の推進を図る。
③「やっしろの風」登録会員数	1,100	5,000	7,855	173%	◎ 前年度より微減であるが、新規会員の登録も一定数あり、引き続きイベントやキャンペーンなどを活用し新規会員登録を図りつつ、新たなコンテンツの造成や新しい話題の情報提供など継続会員などへも工夫を図る。
④ホームページアクセス数	489,867	520,000	577,233	290%	◎ これまでも、市民の関心が高いと思われる記事については、そのページとリンクするバナーをトップページに設置するなどの改善を随時行っていた。新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた2月以降は、新型コロナ関連の特設ページを新設し、当該ページとリンクするバナーを設ける等の対応により、アクセス数が大幅に伸びた。今後も、市民にとって見やすく、分かりやすいものとなるよう、継続してアクセス数の増加を図っていく。

(2) 中心市街地のにぎわい創出

商店街は、魅力ある中心市街地の形成にとっても重要な資源です。空き店舗の活用や新規出店者への補助など、商店街の活性化に向けて取組みを強化し、県南の中心都市として交流人口の拡大を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①中心商店街の通行量	8,789	9,000	6,326	-1167%	↘ 商店街の核となる店舗の撤退により通行量が減少しているが、民間病院の進出や新庁舎建設、シンボルロードの整備など、人の流れが大きく変わる時期に来ており通行量の増加も期待できる。今後も商店街の魅力向上に向けた努力を求めていく。
②中心商店街の新規出店数(空店舗の改善)	4	15	26	200%	◎ 令和元年度の新規出店は5件あり、令和2年度も既に4件の新規出店があっている。民間病院の進出は店舗の出店を促進しているとともに、まちなか活性化協議会や各商店街振興組合が実施しているソフト事業も集客につながっている。なお、老朽化した空き店舗対策を検討していかなければならない。

基本目標3 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”

1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(1) 結婚・出産・子育てへの支援の展開

妊娠、出産、子育て中の人や、子どもの発達に不安をもつ家族などが、不安感や孤立感、負担感を抱えて生活することがないよう、精神的負担や経済的負担を軽減する取組みを実施し、安心して子どもを産み育てることができるよう支援を行います。

また、結婚の希望実現を図るための取組みを推進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 妊娠届出数	1,020	1,087	807	-318%	↘ 妊娠適齢期と考えられる20～34歳の人口減少及び晩婚化・未婚化の影響などで妊娠届出数は、年々減少している。出生数の増加を目指し、不妊治療の公的助成の拡大など少子化対策を強化し、妊娠期から子育て期まできめ細やかな支援に努めたが、目標に達することはできなかった。今後も、妊娠届出数の減少は避けられず、妊娠、出産、子育て中の人安心して子どもを産み育てることができるための評価指標の見直しが必要。
② 乳児全戸訪問指導実施率(%)	98.1	100.0	99.1	53%	↗ 訪問実施率100%を目標に、事業を実施したが、自宅への訪問を拒否するケースがあり、目標達成できなかった。しかし、第1子の家庭には生後1か月以内に早期に訪問し複数回支援するなど、不安の軽減に努めた。 なお、未訪問ケース8件についても、保健センター等を案内し、5件は来所で対応し、3件は4ヶ月健診で状況を確認し、100%把握はできている。
③ 地域子育て支援センター・つどいの広場利用者数(延数)(人/月)	4,661	4,703	3,613	-2495%	↘ 年度末の3月は、新型コロナウイルス感染症対策のために利用を予約制にし制限した。利用者数は減少傾向ではあるが、毎月多くの親子の利用があり、子育て支援の場として重要である。
④ 第三子以降保育料無料化の対象者数(累計)	853	4,265	3,441	76%	↗ 対象児童の減少に伴い目標値には達していないが、子育て世帯の経済的負担軽減に繋がる取組みである。
⑤ 障がい児通所支援事業の利用者数	427	471	757	750%	◎ 過去3年の平均伸び率:107.5%と増加傾向にあり、目標を上回っている。
⑥ 婚活イベントへの参加者数累計	0	500	977	195%	◎ 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した、新しい生活様式に対応したイベントの開催方法を検討する。

(2)働きながら子育てしやすいまちづくり

共働き世帯の増加や働き方の多様化に対応するため、保護者のニーズに応じた各種保育サービス等の提供を行い、仕事を持ちながら安心して子育てできる環境の整備を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①放課後児童クラブ数(箇所)	34	42	40	75%	↗ 整備等によりクラブ数は増えたが、未だ待機児童が生じている。支援員の不足も課題であるため、ニーズに応じて今後も整備等により待機児童解消に努める。
②保育所・認定こども園・地域型保育の保育定員数	4,439	4,480	4,498	144%	◎ 待機児童はなく、保育需要に対応できている。
③日中一時支援事業(日中短期入所)利用者数(人/月)	17	31	14	-21%	↘ 利用者は、固定化しており、新規開設の事業所もなかったため、20人前後で推移していたが、令和元年度は、受入施設の1つが年度途中で改装工事を行い、受入ができなくなったため減少した。
④日中一時支援事業(障がい児タイムケア)利用者数(人/月)	76	116	102	65%	↗ 利用者数が減少し、令和元年度は目標を達成できなかったが、日中監護する者がいない子ども達が利用できるサービスであり、子どもの達の活動の場として重要である。

2. 健やかな暮らしの実現

(1) 健やかで安心な暮らしの確保

市民が生涯にわたり、健康で、いきいきとした生活が送れる健康長寿社会の実現を目指して、生活習慣病の発症予防や重症化予防のための健診や保健指導等の充実を図ります。

また、高齢になって病気や介護が必要となっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、医療、介護、予防、住まい及び生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を図ります。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①特定健診受診率(%)	32.5	向上	34.2	—	◎ 若干ではあるが受診率は向上している。未受診者の多くが治療中であることから、医療機関と連携した特定健診同等検査情報提供事業を実施し、今後も継続して、受診率向上を目指す。
②各種がん検診受診率(%)	19.3	向上	9.4	—	↘ がん検診の受診率は、年々減少している。「がん」対策には、早期発見・早期治療が重要であるため、様々な機会を通じて市民へ正しい知識の普及啓発を強化し、今後も受診率向上を目指していく。なお、がん検診対象者で、企業や保険者が行う検診の受診状況が把握できないため、受診率の正確な算出が困難な状況である。また、国において受診率の算定方法が見直しているため、年度ごとの受診率について比較ができないことも課題がある。
③地域包括ケアシステムについての認知度(%)	23	向上	32.2	—	◎ 地域包括ケアシステムに対する理解が十分とは言えない状況である。地域包括ケアシステムは、地域が一体となって作り上げていく必要があることから、今後も、住民への理解を促していくこととする。

(2) 学び・教育の充実

子どもが等しく安心して教育を受けられるように、経済的支援の充実を図り、子どもの就学及び学習機会の均等を確保します。また、学校、家庭、地域社会の連携により、子どもの知・徳・体の向上や地域における教育力の向上を目指します。さらに、郷土のよさを活かした教育活動を展開し、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する心を育むための教育環境を整えます。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①「学校に行くのは楽しい」と思う小学6年生の割合	51	56	74.6	472%	◎ 昨年度より7.1ポイント増加し、取組の成果があらわれている。今後も仲間づくり等の活動とともに、更なる学力向上の取組を推進し、小中の連携を図っていく。
②「地域のことが好きだ」と思う中学1年生の割合	49	54	48	-14%	↘ H30より、4.1ポイント増であったが、目標値を下回る結果となった。学校と地域の連携は進んでいるので、今後も、更に学校におけるい地域人材の活用を推進し、地域理解を深めていく。

基本目標3 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
③家庭教育学級参加者数	14,733	15,000	14,915	68%	↗ 学級数は2学級増加したものの新型コロナウイルス感染症の影響で3月以降の閉級式等が開催されなかったことが参加者減の要因である。目標設定は、適切であり、今後も家庭教育学級未開設校に対し、学級開設を推進し、家庭教育の充実を図っていく。

(3) 女性の社会参画の支援

男女共同参画を推進し、女性の社会参画を支援する仕組みづくりなどを通じて、女性が活躍できる社会の実現を目指します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 審議会等における女性委員の割合	32.2	40	30.9	-17%	↘ 審議会等の委員構成の多くを占める専門の知識を必要とするものや各種団体等の代表者において女性の在籍が少ないため、推薦される女性が少なく、登用率が低い状況となっている。今後、女性のエンパワーメントの支援、女性人材リストへの登録促進、全庁的に更なる登用の働きかけを行う。
②「男は仕事、女は家庭」というような、性別で役割を固定する考え方に賛同しない人の割合	62.6	75	71.2	69%	↗ 市民意識調査の結果、若年層では「賛同しない」の割合は男女ともに前回調査に比べ増加してきているものの、年代が上がるにつれ、「賛同しない」の割合が減少しており、特に男性でこの傾向が顕著であることが要因の一つと考えられる。今後、市民意識調査の結果を踏まえ、より効果的な啓発活動及び学習機会の提供等について検討を行う。

基本目標4 “やっしろ” の発展を支えるまちづくり

1. 誇れるふるさとづくり

(1) 特色ある地域づくり

各地域の多種多様な課題の克服や活力ある地域社会形成のため、地域活動への支援やコミュニティセンターの設置・整備等を進め、市民と行政が協働で行う住民自治によるまちづくりを推進します。

また、本市には、松浜軒や水島、八代城跡群をはじめとする名勝や史跡、妙見祭や久連子古代踊りに代表される民俗文化財、干拓樋門や石橋など、多くの有形無形の文化遺産があります。これらの歴史・文化・伝統の保存継承や、豊かな地域資源を活かした特色ある地域づくり活動を推進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① コミュニティビジネス実施地域数	1	10	10	100%	◎ 平成26年に21地域協議会が設立され、特に中山間地域においては市との協働で地域の特性を活かしたコミュニティビジネスに取り組まれた。また、平野部においてもイベント等での販売事業を展開された。
② 国指定文化財件数	11	12	11	0%	→ 国指定の前提となる必要な現地調査は終了しているが、国との事務協議が整っておらず、同意書の取得が未済の為。 所有者からの同意書の取得を進めるとともに、引き続き国協議を継続し、早期の国指定申請を目指す。

2. 暮らしの拠点づくり

(1)「生活基盤」の整備

市民の安心・安全・快適な住環境の充実を図るため、交通環境の形成と再生可能エネルギーの普及拡大やICT基盤をはじめとする生活基盤の整備・強化を推進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①超高速通信網の整備促進(地区)	1	6	2	20%	↗ 市が民間の整備事業者を選定し補助を行い、令和元年度から4か年かけて超高速通信網未整備地区の整備を行うが、その計画どおりの進捗のため。
②市道の改良率(%)	50.9	53.0	51.6	33%	↗ H27策定時の改良率の分母となる市道延長に錯誤があり延長を見直したためH28以降の進捗率が伸びていない。今後も事業費を確保し、計画的な事業進捗を図っていく。(修正案 進捗率50%)
③都市計画道路の整備率	79.5	80.0	80.3	160%	◎ 事業費の確保が課題であることから、定期的に政府要望を実施し、重点的かつ継続的な事業費の確保に努め、計画的に事業進捗を図っていく。
④バリアフリー化率(道路)	52.3	60.0	69.4	222%	◎ 今後も事業費を確保し、計画的な事業進捗を図っていく。
⑤バリアフリー化率(公園)	34.6	40.0	43.9	172%	◎ 都市公園安全・安心対策緊急支援事業にて実施。進捗はあるものの、未実施の箇所数としては多く残っており、引き続き事業の推進を図る必要がある。
⑥汚水処理人口普及率	63.4	73.6	69.8	63%	↗ 令和元年度は宮地校区を重点的に整備しましたが、う回路を確保しながらの発注計画になる為、想定以上に進捗が図れなかった。
⑦住宅用太陽光発電システムの普及率	5.4	13.0	14.7	122%	◎ 順調に普及してきており、引き続き、再生可能エネルギーの導入・利用促進に関する情報提供や支援を行っていく。
⑧市有施設への太陽光発電設備導入数	11	15	14	75%	↗ 当初、新庁舎への導入を見込んでいた。今後の具体的な導入予定はないが、補助事業の活用等について周知・検討していく。
⑨ケーブルテレビインターネット利用者数	984	1,180	963	-11%	↘ ケーブルテレビサービス域内(坂本・東陽・泉)の人口減少のためケーブルテレビ利用者が減少し、それに伴ってインターネットサービスの利用者数も減少したため。
⑩ケーブルテレビ光ケーブル普及率	0	100	0	0%	→ 市が民間の整備事業者を選定し補助を行い、令和元年度から4か年かけて超高速通信網未整備地区の整備を行うが、その計画どおりの進捗のため。

(2)災害に強いまちづくり

市民の安心・安全・快適な住環境の充実を図るため、交通環境の形成と再生可能エネルギーの普及拡大やICT基盤をはじめとする生活基盤の整備・強化を推進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①自然災害対策事業 (5か年の事業完了路線数)	0	2	5	250%	◎ 今後も事業費を確保し、計画的な事業進捗を図っていく。
②砂防事業・急傾斜地対策事業等の促進(県事業) (5か年の事業完了箇所数)	0.0	4.0	3.0	75%	↗ 本事業は熊本県の事業であり、熊本県の事業進捗に伴い達成状況が左右される。今後も連携を図りながら、計画的な事業進捗を要望していく。
③自主防災組織結成率(%)	80.0	90.0	87.2	72%	↗ 未結成地区に働きかけ、結成を促す
④消防団員の充足率(%)	96.0	96.0	91.8	—	↘ 今以上に市内企業への働きかけを行い、団員確保に努める。
⑤防災情報システムの再構築(%)	0.0	100.0	60.0	60%	↗ 公募型プロポーザルを実施し、相手方を決定した。現在、実施設計を行っている。

(3)持続可能な公共交通体系の構築

身近な近隣拠点等までの移動手段が確保され、地域で生活し続けられる環境が維持される一方で、多様で高度な機能が集積する中心拠点などと相互に円滑なアクセスが確保される公共交通体系の構築を推進します。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
①公共交通不便地域の居住人口割合	19.3	15	15.3	93%	↗ H29.10実施の再編実施計画による乗合タクシーの運行区域拡大により、公共交通サービスを提供する範囲が広がったため。
②市街地循環バス利用者数(万人)	28.4	37.0	25.2	-37%	↘ H29.10の再編時に運賃を100円から150円へと見直したことや、他の路線バスへの利用転換により利用者数が減少したものと考えられる。

(4) 地域間連携の推進

本市は、すでに近隣自治体と一体的な経済・生活圏を形成しています。今後、人口が減少しても、自治体間の役割分担と連携により、圏域に必要な都市機能及び生活機能を確保し、住民が安心して暮らせるように、定住自立圏形成等の連携による取組みを強化していきます。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 定住自立圏共生ビジョンに基づく具体的取組み数	0	40	51	128%	◎ 第2期定住自立圏共生ビジョンを策定し、引き続き定住自立圏構想の推進に取り組んで行く。

(5) 行政の効率化

公共施設の更新や統廃合、長寿命化を図るため、公共施設等総合管理計画などに基づいた公共施設の的確なマネジメントや、メンテナンスサイクルの構築と着実な実行を推進します。また、マイナンバー制度の活用なども含め行政の効率化を図り、持続可能な行政運営を行います。

■重要業績評価指標(KPI)

KPI	策定時	目標	令和元年度		評価
			実績値	進捗率	
① 橋梁長寿命化修繕事業による修繕箇所数	9	40	31	71%	↗ 河川管理者や地元調整に日数を要し、事業進捗が遅れている。今後も補助金を活用し事業費の確保を図っていく。
② 公園施設長寿命化計画による更新施設数(遊戯施設)	10	50	35	63%	↗ 公園施設長寿命化対策支援事業にて実施。緊急性・利用度合い等による必要性の高い箇所より継続し事業を実施する。
③ 八代市営住宅長寿命化計画による修繕・改善事業数	20	70	74	108%	◎ 現在の計画は令和2年度で終了するが、令和3年度から第2期長寿命化計画を策定し、計画に基づき市営住宅の適正な維持管理を行っていく。

基本目標に係る数値目標

基本目標1 魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やっしろ”

数値目標	策定時	H28	H29	H30	R1	目標
従業者数(人)	49,768人	49,464	49,464	49,464	49,464	48,544人
	(H24)	H28.6	H28.6	H28.6	H28.6	R1時点
製造品出荷額等(億円)	2,292億円	2,462	2,463	2,363	-	2,580億円
	(H25)	H27.1-H27.12	H28.1-H28.12	H29.1-H29.12	R3公表予定	R1計
農業者総所得額(億円)	52億円	56	72	47	40	54億円
	(過去5年間の最大・最小値を除く平均値)	H27.1-H27.12	H28.1-H28.12	H29.1-H29.12	H30.1-H30.12	R1計

基本目標2 人をひきつけ、人が集う、活気ある“やっしろ”

数値目標	策定時	H28	H29	H30	R1	目標
観光入込客数(万人)	238万人	221	284	253	217	260万人
	(H26)	H28.1-H28.12	H29.1-H29.12	H30.1-H30.12	H31.1-R1.12	R1計
観光消費額(億円)	119億円	99	144	134	122	130億円
	(H26)	H28.1-H28.12	H29.1-29.12	H30.1-30.12	H31.1-R1.12	R1計
社会増減数	▲1,199人	▲141	▲252	▲367	▲692	▲1,020人
	(H27-31社人研推計値)	H27.1-H28.12	H27.1-H29.12	H27.1-H30.12	H27.1-R1.12	H27-R1累計

基本目標3 誰もが希望をもって暮らせる“やっしろ”

数値目標	策定時	H28	H29	H30	R1	目標
希望出生率(%)	2.00%	—	—	—	1.88%	2.07%
	(H27)	R1調査予定	R1調査予定	R1調査予定	R1調査	R1計
65歳以上人口に占める要介護3以上の割合(%)	7.21%	7.70%	7.77%	7.42%	7.57%	7.20%以下
	(H27)	H28.9	H29.9	H30.8	R1.8	R1時点

基本目標4 “やっしろ”の発展を支えるまちづくり

数値目標	策定時	H28	H29	H30	R1	目標
住みやすいと評価する人の割合(%)	70.8%	—	—	—	68.0%	75.0%
	(H27)	R1調査予定	R1調査予定	R1調査予定	R1調査	R1時点